

## あじさいネット入会方法のご案内

### 1. 入会

入会申込書を事務局宛に送っていただきます。  
所属医師会が入会している場合は個人の入会金は無料です。  
所属医師会が入会していない場合は、入会金が **50,000円** 必要となります。  
尚、初期設定費用として別途 **30,000円** を承ります。

### 2. 利用料金

月々 **4,000円** (レセプトオンライン請求も希望の場合は **5,000円**)  
と年 **3,000円** のウイルス対策ソフトライセンス料が必要です。ウイルス対策ソフトライセンス料とあわせて年間一括払いをお願い致します。

### 3. 機器の設置

機器設置用ヒアリングシートに必要な事項をご記入の上、事務局宛にファックスまたは郵送願います。  
シートに基づいて専門スタッフ (NIT 西日本ホームテクノ九州) が設置、動作確認に参ります。

### 4. 運用講習会

利用法の運用講習会です。講習後『講習会受講修了証』とアクセス専用 ID と仮パスワードをお渡し致します。

### 5. 同意書と登録

患者さまにあじさいネットに関する説明を行い、あじさいネットに参加するための同意書をご記入いただけます。取得した同意書は診療情報閲覧を希望する情報提供病院の医療連携室宛にファックスで送付して下さい。約 10 分後に連携室より手続き終了の FAX が届きます。この段階で利用可能です。

### 6. あじさいネットポータルサイトへのログイン

アクセス専用 ID・パスワードにてあじさいネットのポータルサイトにログインし、同意を得た患者さまの診療情報を見ることが出来ます。

\*手続き上、必要な様式ならびに同意書につきましては HP からダウンロードできます。

## あじさいな人々

たけな かつら



### 入会等に関するお問い合わせ先

あじさいネット事務局(長崎県医師会事務局内)担当：三浦、苑田  
電話 095-844-1111 FAX 095-844-1110

高橋先生は、今回、中面記事にてご紹介しています。同僚先生いつも楽しい作品ありがとうございます。

## 編集後記

これから長崎労災病院(佐世保)、諫早総合病院(諫早)、虹が丘病院(長崎)、そして五島中央病院(五島)が情報提供病院として運用が始まります。これで情報提供病院は21となります。全国的には地域医療再生基金を使ったあじさいネット同様のIT地域連携の取り組みが広がっており、あじさいネットよりも多くの情報提供病院数で運用を計画している地域もありますが、実運用しているネットワークでは、現在あじさいネットが全国最大規模と思われる。今後も他の地域に負けないよう安全で地域医療の質向上に有益な連携ツールとして発展していくよう、皆様のご協力のほどよろしくお願いいたします。

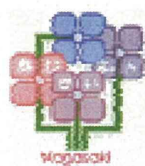
\*ご感想は、あじさいネット事務局「[ajna@nagasaki.med.or.jp](mailto:ajna@nagasaki.med.or.jp)」までお願いいたします。

あじさいネット OFF LINE 通信 編集長 松本 武浩

広報誌に関わるご意見・ご要望は、長崎県医師会 長崎県あじさいネット拡充プロジェクト室までお寄せください。  
電話 095-894-9665 FAX 095-894-9661 [aj-na@nagasaki.med.or.jp](mailto:aj-na@nagasaki.med.or.jp)  
最新の情報は、HPをご覧ください。<http://www.ajisai-net.org/>

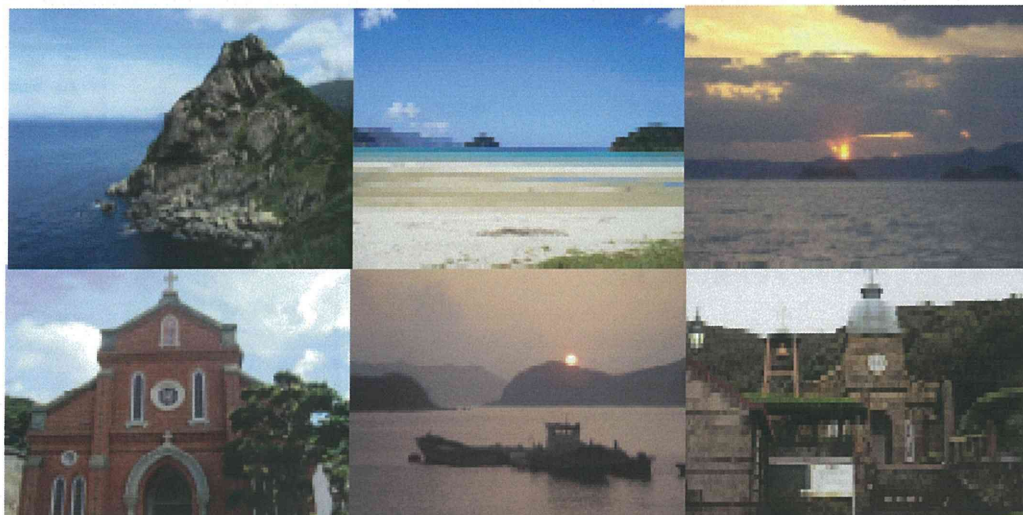
会員の皆様とあじさいネットをつなぐ情報誌

2013.7



# あじさいネット OFF LINE 通信

## vol. 7



上五島の初夏の風景

写真提供：八坂 貴宏 先生（長崎県上五島病院）

### 目次

#### 会員様の声

むたクリニック	車田 幹久 先生	2
藤井外科医院	藤井 卓 先生	3
中村内科	中村 貴 先生	4
アクア薬局	佐田 悦子 先生	5

#### 情報提供病院のご紹介

長崎県上五島病院 地域医療連携室	6
------------------	---

#### あじさいネット キーパーソンに聞く

SEC 伊藤 龍史 氏	7
-------------	---

#### 寄稿「あじさいネット」のインフラを利用した高品質遠隔画像診断

長崎大学病院放射線科 上谷 雅孝 先生	8
---------------------	---

#### 難島・救急医療支援/高品質遠隔画像診断システムについて

あじさいニュース TV会議システム/第4回あじさいネット研究会	10
---------------------------------	----

#### 現在の運用状況

(平成 25 年 6 月 16 日現在)

患者登録数	27,932 名
(全件あじさいネット説明同意書取得済み)	
会員数	329 名
情報閲覧施設数	192 施設
(内、薬局数 32)	
情報提供病院数	19 施設

#### 賛助会員

- (株)ホギメディカル福岡営業所
- 日本電気(株)医療ソリューション事業部
- 三菱化学メディエンス(株)
- 富士通(株)長崎支店
- (株)NTT データ ライフサポート事業本部
- 山下医科器械 (株)

#### 基本理念

地域に発生する診療情報を患者さまの同意のもと、複数の医療機関で共有することによって各施設における検査、診断、治療内容、説明内容を正確に理解し、診療に反映させることで安全で高品質な医療を提供し、地域医療の質の向上を目指すものです。

NPO法人長崎地域医療連携ネットワークシステム協議会



ネットワーク作りも人間関係も、どちらも一緒に進めていくことが大切。



・ DOCTOR'S PROFILE ・

S60 年 久留米大 学医 学部卒  
H 9 年 久留米大 学医 学博士  
H12 年 久留米大 学医 学博士  
■長崎県医師会常任理事  
■あじさいネット設立時より理事

この九年間で学んだこと

九年前、大村市の中でもっと先生たちと情報を交換し合うというのが目的で、自分の専門外のことまで気軽に地域の開業医の先生や医師会仲間の先生に聞くシステムが作れないかと思っ

た。この九年間の経験で私が学んだ事は、いくらITのシステムだけが優れていてもいいものは作れないし、逆に人間関係だけ良好だったとしても、それでは従来と何ら変わらないということ。ITシステムを進化・充実させていく事と人間関係を構築していく事。この両方を一緒に進めていかないと、皆から望まれる地域医療連携ネットワークには育っていかないんですね。だから、運営委員会や地域部会、メーリングリストといった場で、「こんなこと出来たらいいね。」「これはセキュリティ上、慎重に検討しないといけないですね。」という話がざくざくばらんにできる人間関係を作らないといけない。そして会員の意見をシステムに反映させて運用していくことであじさいネットは県内に広がるネットワークへと育ってきました。

大村市古町 むたクリニック 牟田 幹久 先生 先生

守るべきこと、変えていくべきこと  
現在、病診連携が先行してしまい「拠点病院の診療情報を共有するあじさいネット、地域医療連携のあじさいネット。」というふう

に全国に広がっています。  
しかしながら、当初、私はあじさいネットを通して医師会の開業医の先生同士の横のつながり、つまり「地域の医師会員同士で、医局の中にあるみたいに自分の専門外の治療法などの様々な事をフランクに相談できる」、そんなシステムを作りたいと思っていました。お

もとは「地域全体で医療をやりましょう。そうすることによって、患者さんにも医師会員にもそれぞれメリットが生まれますよ」という考えです。  
当初、私が目指したシステムにはまだ行き

着いていない現状ですが、今度、SMSやメールやノート機能に加わり、徐々にではありますが横のつながりも実現できるように努めています。  
現在、医療現場でのIT利用も長崎大学病院の標準化が進んで中心になり進んでいます。当初は、VPNルータ経由の利用のみ認めて

自分らも、時代に合わせ柔軟に考え方を変えていくことは、やっていかねばならないと思います。  
あじさいネットに架ける夢を教えてください。  
昔は、一人の医師やひとつの病院で、一人の患者さんを見ていました。しかし、医療が専門化、細分化した現在では、一人の医師やひとつの病院だけでは、患者さんの複数の病状や、急性期から回復期、慢性期といった多種多様な状態に対応できなくなってきました。多種多様な患者さんの状態に、柔軟に対応するためには、地域全体が連携する必要があり、あじさいネットは、この連携をよりよく行うためのツールだと思っています。このツールを以って、地域の中で一つの医局といった雰囲気と、協力体制を作れないかなというのが、私のあじさいネットに架ける夢です。

ほとんどの開業医は、最初は拠点病院に勤務して実力をもって開業していますが、以前は拠点病院に勤務して実力をもって開業してはいます。  
折角、それぞれがいいものを持ってきているのに地域の中でお互いに使わないと勿体ないですね。

●●牟田先生にお聞きしました●●

- Q. 趣味
- A. 趣味ではないけど、剣道六段、居合道四段。
- Q. 座右の銘
- A. 「剣医一如(けんいいちにょ)」が医者で剣道をする人たちの合言葉です。剣道(武道)の本来の目的は、日々稽古修行をして自分自身を律し、その技を人を助けるために使う事です。剣術家福生宗矩は「達人剣」という言葉を残しました。それは剣をもって人を助け、人の役に立つというものです。  
医者も一緒に、日頃から勉強して自分自身を律しないと人を助けることができない。「剣道の心も医者の心も一緒なんですよ。だから一所懸命剣道もしながら一所懸命医療を行う」ことが「剣医一如」の意味です。「とにかく何事にも人のために一所懸命やりなさい」という教えです。それは剣道だけでなく全ての道に通ずることだと思えます。全ての日本の道とつくものはそうなんじゃないかな。

長崎市では日常にあじさいネットがある風景を当たり前にしていきたい。



・ DOCTOR'S PROFILE ・

551年 長崎大学医学部卒業  
 H5年 藤井外科医院開業  
 H21年よりあじさいネット会員  
 長崎市医師会副会長  
 長崎在宅Dr. ネット理事長  
 長崎市あじさいネット準備委員会 委員

誰もが入会でき継続性のあるネット  
 ワークを長崎市で展開したい

長崎市内で、統一した医療連携ネットワークを構築するため、長崎市医師会、長崎市内の十数の特設病院と一緒に、五年間に亘り会議やアンケート調査を重ね、中身を詰めていきました。

皆が自由に入会できるネットワーク、継続性のあるネットワークを作りたいというコンセプトの元、五年前「あじさいネット」を導入しました。

大村と長崎から、将来的には長崎県下全域に広げようという意気込みでした。今、徐々に理想に近づきつつあります。

日常にあじさいネットがある診療  
 拠点病院から当院にかかりつけの患者さんが退院する際、通常は拠点病院から引継事項の連絡がありますが、従来ならそれを文書で受け取るだけでしたが、あじさいネットを利用すると、

長崎市茂木町 藤井外科医院 藤井 卓 先生

TEL : 095-836-3233

詳細な現状把握ができるので、拠点病院の連携構築から退院の連絡があった際に、逆に私の方から「ここは問題じゃないの？これを解決してもらわないと退院後の管理は難しいですね。」といった調整をお願いします。」といった提案ができ、退院後に向けての調整が適切に行えます。そういった事は以前だったら考えられないですよ。

「あじさいネット」は皆の教育の場でもあります。

在宅医療も含めて、医療は病院に連院、入院するだけで完結するわけではありません。病院の外でも、安全に診療情報を共有する方法はないかと思いついて皆で模索した末、「あじさいネット」を紹介したモバイル利用の提案に至りました。

現在、診療情報を閲覧だけではなく双方向に共有することを目的として、メッセージングアプリやLINEを用いた試験運用を行っています。この取組みが実現すれば、在宅医療に新たな可能性が生まれると考えています。

例えばレントゲン機器や心電図は、どこの診療所にもあります。長崎市の医療現場では、これらと同じように、あじさいネットを診療情報共有と通信機器を兼ねたツールとしてあつて当たり前の環境にしていきたいです。

また、あじさいネットは皆の「教育の場」だとも思っています。あじさいネットに参加することによってセミナー、ネットワーク、医療連携、新しい知識といった色々な事を学ぶことで皆が教育されていくと思っています。

「あじさいネットとは皆でアイデアを出し合って色んな夢を実現できる場」

当初からあじさいネットに関わってきて、今思うのは、あじさいネットは、単なる医療連携のシステムではなく、色々な可能性があるということです。皆で色々なアイデアを出し合って、それをあじさいネットに携わるベンダーの方々も一緒に切った切ったしながら実現化してくる。自分たちのためだけにやらないから楽しい。

皆それぞれ自分の意見を好き勝手に出し合いながらも継続して使われているのは、やっぱり何らかの共があるからでしょう。そうじゃないと、例えばあじさいネットが単なるパソコンソフトという捉え方であればここまで続かないと思います。

最近、長崎市のあじさいネットに携わるメンバーと飲みながら「あじさいネットは、確固たるポリシーの上に皆のアイデアや思いというソフト面を併せて合せているよね。だから、あじさいネットというシステムを、単に他地域にもっていったら、あじさいネットにはならないよね。」といった話をしたんですよ。

在宅医療も

あじさいネットでの新たな分野への挑戦も、決して特殊なことではなく当たり前に徐々に

私は、長崎在宅Dr. ネットで新たな在宅医療体制作りにも取り組んでいます。在宅医療もあじさいネットでの新たな分野への挑戦も、皆大事な事と思われています。でも、そういった事を頭固って成し遂げるのではなく、普通に徐々に実践していきたい。そして自然体で結果がついていくようにしたいと思います。

県北でも「あじさいネット」の便利さが伝われば、これからもっと増えていくと思います。



・ DOCTOR'S PROFILE ・

■ 3年 久留米大学医学部卒  
 ■ 18年 医療法人共済会 中村内科緑木  
 ■ 24年よりあじさいネット会員

入会のきっかけ

佐世保市医師会では情報ネットワーク委員会のなかで、あじさいネットに関する様々な検討を行ってまいりました。私は同委員会の一員として当地域でのネットワークの接続状況や運用の難易などの役目を頂き入会いたしました。

地域医療連携の中の「あじさいネット」

県北地域は、人口も多くエリアも広いため拠点病院や地域の医療機関の先生方は本当にお忙しい中頑張られており、大変な努力で地域医療を守っておられると思います。

また、地理的にも、長崎県の枠を超え隣県や福岡県などとも人や情報の交流がありますので医療連携も多様な形態が形成されているようです。

このような環境のなか、ずっと地域医療を守ってこられた先輩方の医療に対する強い気概を感じますし、この地域は歴史などにとらわれな

佐世保市権常寺町 なかむら たかし  
**中村内科 中村 貴 先生**

TEL : 0956-39-1166

い経歴の相互信頼に支えられて連携が実現されていると実感します。そこに今回、連携の一つのツールとしてITネットワークが導入されたのだと理解しています。

「あじさいネット」、県北への拡がり  
 以前から、佐世保中央病院の医療IT連携ネットワーク「メディアカルネット99」を利用しておりましたので、「あじさいネット導入」は未知で新鮮なものだという印象はあまりありませんでした。

ただあじさいネットには、佐世保市立総合病院、佐世保中央病院、佐世保共済病院、長崎労災病院の県北地域の全拠点病院が加入され、将来的に病室・病診や他職種をつなぐ多様なネットワークとなる可能性があり、非常に期待しております。

現在は、「メディアカルネット99」を利用して先生方がご利用を開始された段階だろうと思います。あじさいネットに賛同される医療機関や職種が拡がり、応用されて利便性が実感できてきたら、利用者や同意される患者さんも増えていくと思います。

連携患者さんの情報共有に活用

当院も、専門領域疾患のご相談や、救急重症患者の対応、高度診療機器の申し込みなど日々連携病院にお世話になっており、ネットワークを利用してあります。とくに救急重症患者のご相談の際に、あじさいネットの同意を取得しており、紹介後の診断や診療の経過、検査内容などを確認しています。

また、病診連携でも継続的にみていく患者さんのデータや画像を閲覧して診療に役立てています。

県北でも在宅医療にITを推進

佐世保市医師会では在宅医療を推進されている先生方の中でこのネットワークを大いに活用しようとする試みが検討されています。積極的な多職種連携の展開を県北地域で進めていくツールとしてIT導入を進めていくという勢いがあります。

あじさいネットへのお願い

また、ネットワークの診療情報がさらに充実したものとなるために、佐世保4病院の2号用紙の閲覧が持たれます。各々の機関の準備や連携状況もあると思いますが、医師・看護記録が参照できればさらに診療の参考になり、自身の向学にもつながるだろうと思います。

●●中村先生にお聞きしました●●

- Q 佐世保の地域医療連携、具体的には？  
 A 人のネットワークがここ佐世保にはあります。はじめても経験も異なる佐世保で初めて知り合えた先生方、みな気さくで親切なので連携やその他でも大変感謝しています。
- Q 座右の銘  
 A 「和を以って貴しとなす」\*  
 同じ使命をもつ皆さんが、仲良くする事が大切だと思います。当地区や、県内・隣県などへ相互理解と協力を深めていけたら素晴らしいと思います。  
 ☆ 日々『和』で支えてくれている当院職員にも大いに感謝しています。
- \*聖徳太子の聖法十七条第一條

『薬剤師の在宅訪問』にあじさいネットを活用しています。



・佐田 悦子 先生 PROFILE・  
 2007年 福岡大学薬学部卒  
 2014年 アクア薬局開局  
 2024年よりあじさいネット会員

入会のきっかけ

長崎県薬剤師会会長の宮崎先生に勧められて入会しました。薬局では患者さんが持参される処方箋1枚から、薬の内容、患者さんの病態を考慮して服薬指導します。あじさいネット利用により検査データとか傷病名が分かるだけでも全く違ってくると思います。入会しました。

「あじさいネットのいい所」

検査値を確認でき、患者さんの生活習慣も考慮にいれて服薬指導ができる

やっぱり一番大きかったのは検査値を確認して服薬指導出来ることです。

また、看護サマリーも非常に役立っています。生活習慣や嗜好によっても、服薬指導は随分変わってくる場合があります。抱薬時、患者さんがどういう生活習慣の中でお薬を飲んでおられるかは全く分かりません。あじさいネットを利用すると、その方の食事の摂取状況や睡眠の状況といった生活が看護サマリーを通して知ることが出来ます。

長崎市田中町 アクア薬局 本店 佐田 悦子 先生

TEL : 095-813-3444 E-MAIL : aqus@mountain.ocn.ne.jp

「あじさいネット」在宅訪問で活躍

あじさいネットは、窓口業務で利用する事もありますが、私の場合、在宅医療の活用が大きいです。

在宅の患者さんの中には、在宅診療と併診で大病院や市民病院に検査のため通院されておられる方もいます。あじさいネットを利用して、そういった方の検査の実施状況を把握する事は服薬指導の参考になります。その他にも抗がん剤を使われている患者さんの投与薬の種類や投与スケジュールも事前に確認できますので、状況にあったより具体的な服薬指導ができます。

また拠点病院を週院されて来局される患者さんに対して、あじさいネットで得られる正確な投薬内容を元に、継続した服薬指導に利用しています。

薬剤師の在宅訪問の意義

私が在宅医療に取り組みきっかけはP・ネットでした。P・ネットで最初に依頼を頂いた患者さんがこの東長崎地区で、在宅訪問に行くようになって約五年になりました。

定期的に来局される患者さんは、きちんと服薬されていることを前提に服薬指導しますが、実際にご家庭に行ってみると全く飲めていない状況が発生していたりと、在宅訪問を行うようになってそういった窓口業務では分からなかった事が次第に分かるようになってきました。その患者さんがどういった生活をしているのかも視野に入れてお薬を見るようになり、服薬指導自体が変わってきましたね。在宅訪問は患者さんのベッドサイドまで行

◇佐田先生のモットー◇

私はとりあえずNOという事はないようにしたいなと。だから例えば訪問依頼があっても、断るという事はせず、とりあえずOKしてから考えます。それで結構自分の首をしめる事もありますが(笑) それと、もう一つはあらゆる物事に感謝するという事。在宅訪問は大変な事も多いですが、患者さんが「ありがとう」と言ってくると良かったなって思います。患者さんから教わることっていっぱいありますし、何とかしたいっていう思いから勉強しようって思います。そういった意味では出会った人とあらゆる物事に感謝したいなと思っています。



くので、なかなかハードルが高い部分もありますし、医師の注釈、看護師の在宅訪問と違いまだまだ薬剤師の在宅訪問は認知がされていません。

しかしながら、実際に少しずつですが私たちがチーム医療に参画しています。今後も、私たち薬剤師の専門を活かす一つのツールとして、あじさいネットを利用し、副作用発現の早期発見といった事につなげていきたいらと思えます。

\*P・ネット：長崎県薬剤師在宅医療研究会

あじさいネットに期待すること

急を要する時には、すぐ担当医師に電話連絡しますが、判断がつかない時は、拠点病院の先生方はお忙しいので連絡するタイミングを悩むんですね。長崎在宅D.E.ネットの先生方とは、D.E.ネットが提供するメールサービスを使って連絡する事がありますが、すごく有効です。このため、今後導入予定されているスマホ上からこのようなメールが利用できると、先生方の手が空いた時にお返事頂けたりと、指示が必要であればそのままご連絡頂けるといった双方の連絡網みたいなのができると思います。

## 情報提供病院のご紹介 長崎県上五島病院 地域医療連携室

長崎県上五島病院は、平成23年7月に診療情報提供をスタートしました。  
「地域と共に歩み、信頼され親しまれる病院」を基本理念としています。

### ◆◆ Message / 八坂 貴宏 病院長 ◆◆



#### DOCTOR'S PROFILE

2023年 長崎大学医学部卒  
専 門：外科  
H19年より現職  
有川医療センター所長 兼任  
有良尾医療センター所長 兼任

五年間に亘り地域医療改革を実践

上五島地域は、新上五島町が一つの行政圏であり、二次医療圏でもありますが、近年他地域に先駆けて、過疎化と高齢化の課題に直面しています。

そこで、平成十九年より行政、病院、診療所一体となって様々な地域医療改革を実践してまいりました。

まず、病院の診療所化、有珠診療所の無球化を進め、上五島病院を二次医療圏の中核として位置付け、一次医療（外来）と二次医療（入院）の円滑な連携を確立しました。

同時に、医療情報ネットワークのインフラ整備を進めました。当院では平成十六年に電子カルテ化しましたが、病院を診療所化する際、当地域で中心的な一次医療機関である有川医療センター、有良尾医療センターにも共通の電子カルテを導入し、光ファイバーで結ぶことで、有益な医療連携を図りました。今後、地域内の医療連携に関しては、光ファイバーを利用した直接の連携と、あじさいネットとを上手く組み合わせながら進めていきたいと考えています。

医療再編により提供する医療の質と、安全

性は確実に高くなりましたが、住民のご意見も多く頂きました。アクセス面の低下といった課題に対しては、行政と協議の上、交通費補助等を実施、現在は付添用宿泊施設の計画に取り組んでいます。地域医療では、住民のニーズが一番大切です。地域の皆さんと対話しながら、地域特性にあった必要な形を構築していく事が重要だと考えています。

介護福祉、病院連携でのあじさいネットの活用を期待

あじさいネットは現在、介護老人保健施設の主治医が、入院時や退院後に利用し介護ケアに活かしたり、近隣の薬剤師が調剤指導に活用しています。

今後は、介護福祉現場で円滑な連携の仕組み作りに活用したいです。あじさいネットによる情報共有が、介護福祉関連の施設間で可能になると、継続性のあるケアを行える上、疾病の予防や服薬管理等の安全対策にもつながります。ただし、その際は、医療従事者の職権によって情報開示の範囲を明確にした上で、共有が不可欠になると考えています。

病棟連携は、あじさいネットスタート時からのご依頼です。当院からは長崎大学病院、長崎市民病院、日赤原簿病院と行き来する患者さんが多くいますから、非常に期待しています。また、当院からのドクターへリ救急搬送は年間四、五十例あり、長崎大学病院あるいは国立長崎医療センターに搬送します。島外の病院にドクターヘリが到着する前に、当院の電子カルテを搬送先の主治医が閲覧できればすぐに治療にはいれるものと思います。

### ●地域医療連携室より

◎診療所の先生方へ◎

登録作業は、おおよそ五分内で完了しています。送られてくる同意書で、フリガナ、性別等の記載されていない事があり確認に時間がかかる事がありますので、送る前に今一度確認をして頂ければ助かります。また本院の患者番号を記入して頂けると更に助かります。

◎不具合時の対応◎

S.E.C.さんに迅速に相談して頂いており、特に問題なく運用しています。

◎その他◎

当院は、医師の入れ替わりが多いので、毎年四月の段階で運用講習会を開催して頂ければ助かります。

また、高齢の患者さんも多いので、同意書を取得する際、あじさいネットの説明を分かりやすくご理解頂くため、マンガのようなわかりやすい資料があったらいいですね。



前列左から本村看護部長、八坂院長、下山看護部長(連携室)  
後列左から福嶋(財務)、平瀬(連携室)、大川(連携室)

少子高齢化の先進地域であり、日本の将来に近い職員の医療は、地域医療の最前線であり、ここで成功した医療は一つのモデルになると考えています。



## 「あじさいネット」キーパーソンに聞く ID-Link開発者 SEC 伊藤 龍史氏

「あじさいネットと共にアイデアを実現していく」

患者さん視点からのシステム開発  
「患者者を中心として」、複数の医療者で連携して診るシステムを形にしたものが、ID-Linkです。

当時、複数の医療機関を相互連携システムは、世の中にはなかったはずし、作るのには非常に難しかったですね。夜九時〜朝三時まで勉強と開発に充て、始めて一年半はなかなかうまくいかないもので、私は開発士がいないんだなと思って、いたある日、光が差したように、「ああ何となく分かったような気がする」とひらめきがあり、その後2年間かけて出来上がったのがID-Linkです。

柴田真智先生との出会い  
ID-Linkを最初に使ってくれたのはあじさいネットでした。

どこからか開発を依頼されたのではなく自分が作ってみようと思い、出来上がったのがID-Linkです。当初引受け手がありませんでした。ちょうどそんな時、市立大村市民病院の柴田先生がID-Linkの事を偶然人づてに聞いて、ID-Linkのようシステムを何年にも渡って探していたと、当社がある段階まで来てくれました。

実は、柴田先生と余り約束をした日、私は二日酔いの状態でよくに酔すこともできず、柴田先生は呆れて「こんなやつ見たことないな」と笑ってくれ「大体どんな人間が作るのか分かったから長崎に來い。」と

言われ、長崎を訪れた時からあじさいネットとの付き合いが始まりました。

ID-Linkを最初に使ってくれたのはあじさいネットです。長崎の皆さんには、ID-Linkを育ててもらった思いが強いです。システムの話は、実際に使う方の要望に対して、私たちが応えるフィードバックの積み重ねがないといけないのは出来ません。

あじさいネットは、全国の医療連携システムの中で、一番人的つながりが濃密な集団だと私は思っています。多分地理的条件や環境がいい事、長崎大学病院のボジションがすごく明確だからかな。皆、長崎が大好きな人がいっぱいいて「長崎が一番いいんだ」という強い郷土愛があり、その濃密な中で、仲間同士であじさいネットをどうするかを考えているのでもっと面白い。実際、私も一緒にやりたいと思えるアイデアが上がってくるのは長崎です。あじさいネットは、僕の中の一番重要なパートナーのようなもの。一番適した表現は同感でしょうか。

今年五月に開催されたあじさいネット研究会で発表された先生方のトップランナー的発想は、全て私も想定していたもので、自分自身、特に必要だと考えるアイデアばかりでした。

今後あじさいネットからの要望に私たちがかなりの意見を加えながら一層に更においものを作っていく予定です。

### ID-Link 独自路線の実績

IT業界は、機能を追加するたびに全て追加費用が発生するのが常です。ID-LinkはそういったITベンダーと一線を画して独自の路線にチャレンジしています。毎月一定額を支払ってくだされば、その後どんなに機能を追加して便利に強化したとしても、それらに対する請求は1円もありません。

要望は全国各地から上がってきます。私にはただ単に要望に応えるのではなく、相手の話をめいっぱい聞いて、その要望の要因を一人ではなく多くの方々に対して読み、自分で考え、多くの方が納得する答えを出し、必ず実現すると決めています。

（二）のため開発期間も短縮のものから二年間とか、四年くらいのももあります。たいていは半年、一年準備し、実行していくものがいくつもあります。マイペースで必ず動く、困っていたら必ず対応する。その中で少しづつ機能を増やしていく。そしてシステムを止めない、ことを実践しています。ID-Linkの停止のお知らせは、MTにされたことはないと思います。

また、運用中のどんな小さなエラーでも当社にメールが届くようになっておりますので、その時点で対応しています。当社は画一化したマニュアルは、取って作っていません。スタッフには、その程度自分でよく考え、柔軟で丁寧な対応ができるよう後進の教育を行っています。

そのせいか、例えば他社製にID-Linkが持たない機能があったとしても「伊藤さんなら期待以上のものを作ってくれるから私たちはただ待つればいい。しかもオプショナル料金を発生しないね。」と楽観的に

に言ってくたさる顧客の方は多いです。

伊藤氏が考える今後の医療連携の行方  
社会の動向としては、ITを使った医療連携をすすめる方向ですが、補助金がなくなる五年後には、現在の1/3〜1/5の資金で運用を行う必要があります。医療連携システムがこれだけ定着しつつある中で、システムの維持は必須です。一つの方法としてITベンダーがサービスのコストダウンによりこれを支えていかなければならないと考えています。今から五年十年が頑張りどころだと感じています。

全国的にみて、地域医療連携システムの日常的な利用率は会員の約三割です。私はこの利用率を引き上げるきっかけは患者さんにあると考えています。それは患者さんが連携システムを認知すればいいのです。「昨日大学病院に行っところ、検査結果見れるって聞きましたね。見れますか？」と来院される八割の患者さんから言われたら利用しますよね。

◆伊藤氏にとってあじさいネットとは？  
同感。立場は違いますが、ヘルスケアITに対する志は同じです。これからも「あじさいネットのメンバー（仲間）の伊藤さん」と皆さんに思ってもらえれば嬉しいです。



左からSNTTデータ高橋氏、SEC伊藤氏、市立大村市民病院 柴田先生  
「ヘルスケア」ITの領域でやるからには、日本製の何かがあるみたいなのがあってもいいんじゃないかな。」と語る姿がとても印象的でした。



## 寄稿

### 「あじさいネット」のインフラを利用した高品質遠隔画像診断

長崎大学病院放射線科 教授

NPO法人長崎画像診断センター 理事長

うまたに ままたか

上谷 雅孝 先生



写真右から長崎大学病院 何野 茂病院長、  
放射線科 上谷 雅孝教授  
NPO法人長崎画像診断センター前にて

長崎大学病院に「NPO法人長崎画像診断センター」設立

この4月から長崎大学病院放射線科ではNPO法人長崎画像診断センターの運用を始めました。地下1階のMR検査棟の1室に専用の画像サーバーと撮影端末があり、あじさいネットのVPNネットワークを利用しています。

センターの設置にあたっては、何野病院長、医療情報部准教授の松本先生や、あじさいネット事務局及びあじさいネット拡充プロジェクト室の方々にさまざまなご助言、ご支援をいただきました。また、県からもご支援いただきました。感謝いたします。

CTやMRIなどの画像診断の撮影件数は年々増加し、しかも要求される診断の質は高まっています。しかしながら、放射線科医の数は十分でなく、特に離島や遠隔地における画像診断専門医不足は深刻なものがああります。

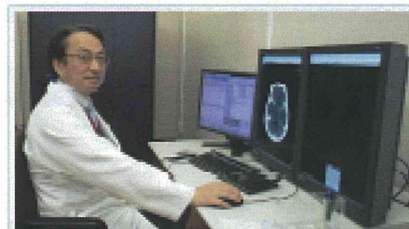
こういった状況に 대응するため、各地で遠隔画像診断が行われていますが、そのレベルはさまざまです。

このセンターの特徴は、放射線診断専門医が、大学病院の中で病院からお借りした専用室にて遠隔画像診断を行うという点です。

これにより人材を有効に使い、専門性の高い領域にも十分対応できるようにしました。

専門性の高い症例は  
二重撮影で更に所見をチエック  
難しい症例は二重撮影という形で、更に専門性の高い放射線科医に所見をチエックしてもらうようにしています。したがって、放射線科常勤医がいる病院でも、専門性が高い症例のコンサルトを受けることで、より質の高い画像診断を行うことが可能です。

◆◆今後の課題について◆◆  
マンパワー不足のために撮影件数に制限があること、夜間・休日の救急症例に対応できないこと、各病院のオーダリングシステムや電子カルテとのデータ連携に別途費用がかかることなど、いくつかの課題がありますが、今後改善を図っていくつもりです。



高品質遠隔画像診断システム  
モニターを前に診断中の上谷教授  
(於：NPO法人長崎画像診断センター)

◆◆今後に向けて◆◆  
遠隔画像診断だけでなく、同時にあじさいネットへ導入されたテレビ会議を使い画像診断勉強会などを開催することができればと思っています。

あじさいネットの一環として、地域医療のさらなるレベル向上に貢献することが我々の使命です。また始まったばかりですが、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いたします。

【記】上谷 雅孝  
長崎大学病院 放射線科



#### ◆「高品質遠隔画像診断システム」の概要◆

高品質な診断の実現を掲げ、長崎大学病院放射線科にNPO長崎画像診断センターを設け、グループ診断、ダブルチェックに加え、あじさいネットの高セキュリティVPNネットワークを利用した複数施設での画像診断による業務分担、および高度な専門性が要求される画像に対して超専門診断を可能としたシステムです。6月現在で県内の9施設が利用しています。

## あじさいネット入会方法のご案内

### 1. 入会

入会申込書を事務局宛に送っていただきます。  
所属医師会が入会している場合は個人の入会金は無料です。  
所属医師会が入会していない場合は、入会金が 50,000 円必要となります。  
尚、初期設定費用として別途 30,000 円を承ります。

### 2. 利用料金

月額 4,000 円（レセプトオンライン請求も希望の場合は 5,000 円）  
と年 3,000 円のウイルス対策ソフトライセンス料が必要です。ウイルス対策ソフトライセンス料とあわせて年間一括払いをお願い致します。

\*TV 会議システム及び、遠隔画像診断システムの回線のみのご利用の場合も同額の料金となります。尚、高品質遠隔画像診断システムでは別途診断料金が掛かります。

### 3. 機器の設置

機器設置用ヒアリングシートに必要な事項をご記入の上、事務局宛にファックスまたは郵送願います。  
シートに基づいて専門スタッフ（NIT 西日本ホームテクノ九州）が設置、動作確認に参ります。

### 4. 運用講習会

利用法の運用講習会です。講習後「講習会受講修了証」とアクセス専用 ID と仮パスワードをお渡し致します。

### 5. 同意書と登録

患者さまにあじさいネットに関する説明を行い、あじさいネットに参加するための同意書をご記入いただきます。取得した同意書は診療情報閲覧を希望する情報提供病院の医療連携室宛にファックスで送付して下さい。約 10 分後に連携室より手続き終了の FAX が届きます。この段階で利用可能です。

### 6. あじさいネットポータルサイトへのログイン

アクセス専用 ID・パスワードにてあじさいネットのポータルサイトにログインし、同意を得た患者さまの診療情報を閲覧することができます。

\*手続き上、必要な様式ならびに同意書につきましては HP からダウンロードできます。

### 入会等に関するお問い合わせ先

あじさいネット事務局(長崎県医師会事務局内)担当：三浦、苑田  
電話 095-844-1111 FAX 095-844-1110

## 編集後記

「あじさいネット」はこれまで、病診連携及び、病薬連携における診療情報共有を主体に運用して参りました。これにより「かかりつけ医・(薬局)」では、様々な医療機関に分散した診療情報を、貴重な医療リソースとして集約管理でき、患者が他院入院中であっても経過が詳細に把握でき、「かかりつけ医」として見守ることができるため、長崎の地域医療は大きく変わることになるでしょう。さらにここにて、新たな機能の登場となりました。救急医療画像支援システムと高品質画像診断システム、そして、あじさいネット専用の TV 会議システムです。これらのシステムは、画像診断という強力な診療支援を救急時と平時で高度に実現、TV 会議を使うことで医師間、医師会間、医療機関間を従来とは比較できないレベルで緊密化させる強力な武器となります。今後有効活用することで、長崎の医療はさらに発展するものと確信しています。

\*ご感想は、あじさいネット事務局「[ajna@nagasaki.med.or.jp](mailto:ajna@nagasaki.med.or.jp)」までお願いいたします。

あじさいネット OFF LINE 通信 編集長 松本 武治

広報紙に関わるご意見・ご要望は、長崎県医師会 長崎県あじさいネット拡充プロジェクト室までお寄せください。  
電話 095-894-9655 FAX 095-894-9651 [aj-na@nagasaki.med.or.jp](mailto:aj-na@nagasaki.med.or.jp)  
最新の情報は、HP をご覧ください。 <http://www.ajisai-net.org/>

## あじさいな人々



藤井先生は、今回、中国記事にてご紹介しています。  
松本先生いつも楽しい作品ありがとうございます。